

支える人を支える 京都の 福祉

府社協 HP

公式 X



『京都の福祉』は福祉関係者に福祉の課題や情報を提供する
「京都府社会福祉協議会」(府社協)が発行する広報誌です

2026
5月号
no.625

▼2ページ

児童養護施設等退所者のいま

「退所後もつながり続けられる関係を目指して」



誰かを思い出すまち

その一言がつながりになる

- 孤立・孤独を考える ▼4ページ
- 令和8年度事業計画・予算 ▼6ページ

もえくさ



M.A

「新年度が始まり早いものでもう5月。5月6日はコロッケの日とのこと。30年程前我が子とコロッケ屋さんまで散歩をしながらよく買っていたが、当時は1個50円だったような記憶が…。それが今では200〜300円になっている。」

「近年、内外情勢の不安定要因から食料品や石油由来製品まであらゆるモノの価格高騰、更には供給制限にまで影響が及び始めている。たまに食べるコロッケなら我慢のしようもあるが、命に直結する医療用品や生活必需品となるとそうはいかない。」

「こうした社会の変化や多様化する困難な時代にあって、依然として地域コミュニティにおける人間関係の希薄化、担い手不足が指摘されており、その解決には地域の生活課題に関心を持ち、自ら考え行動することが重要である。」

「その人らしい暮らしを地域で支えるため、先ず、自分の気持ちは常にコロッケのようにホクホクとあたたかくなりたい。」

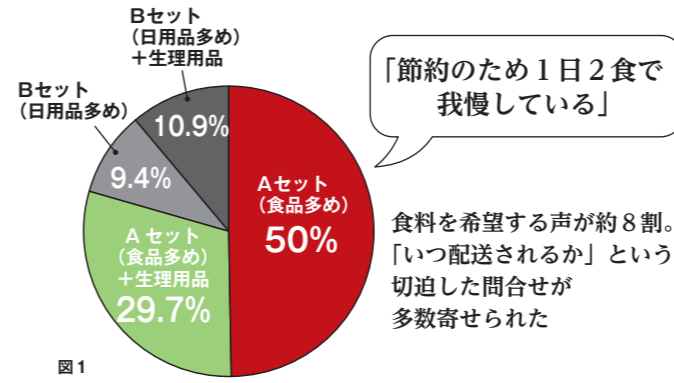
児童養護施設等退所者のいま

退所後もつながり続けられる関係を目指して

京都府社会福祉協議会では、令和7年4月より、地域福祉創生事業の取り組みのひとつとして、「あす・いろいろプロジェクト」を開始しました。本プロジェクトは、児童養護施設等退所者を対象とした給付事業であり、①居住支援、②修学支援、③就労支援の3つの

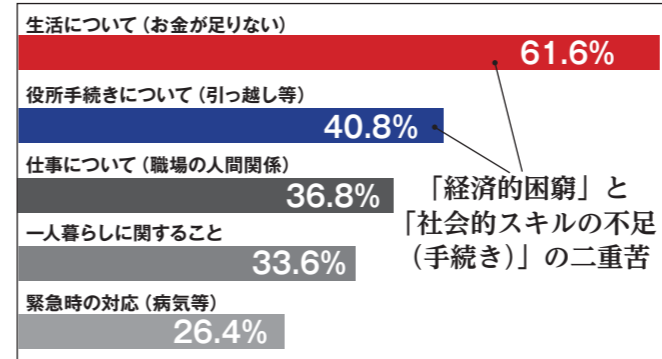
メニューで構成されています。今回、共同募金「赤い羽根・物価高騰下のいのちをつなぐ支え合い活動助成」を活用し、「あす・いろいろプロジェクト」の対象者に対して、制度の周知と退所後の生活実態の把握を目的としたアンケートを実施しました。

支援の現場から：食糧への切実な希求



食料を希望する声が約8割。「いつ配送されるか」という切迫した問合せが多数寄せられた

退所後の壁：若者たちは何に困っているのか



「経済的困窮」と「社会的スキルの不足(手続き)」の二重苦

その結果、当初の想定を上回る

130名の方からご回答をいただき、回答者には食料品や日用品、生理用品などを詰め合わせた支援物資「暮らしのおうえんセット」をお届けしました。アンケート結果からは、食料支援を必要とする現状(図1)や、退所後に直面する困難(図2)として、生活費の不足など、若者が抱える厳しい生活実態が明らかとなりました。

また、精神的な拠り所として、退所した施設とのつながりを挙げる声が多く見られました。施設職員の多忙な業務への配慮を示しつつも、「施設から連絡があると安心する」「退所後も先生が相談に乗ってくれて嬉しかった」といった声が寄せられており、自分を気にかけてくれる存在の大切さや有難みを感じていることが伺えました。

アンケートの中には、「保証人の成り手を探すことに苦慮した」など、「あす・いろいろプロジェクト」だけでは十分にかバーしきれない課題も見受け



総勢20名以上の職員が発送作業に関わりました。アンケート回答者に思いを馳せながら梱包に励みました。

退所した施設からの声

困りごと調査と支援物資提供

この事業の企画説明を受け退所者に連絡を取りましたが、130もの返信があったと聞き、「繋がり」ということを強く感じ嬉しく思いました。でも同時に「困りごと」調査から、この物価高騰の中での生活維持の厳しさや孤独・孤立と戦っている退所者もいるという現実もあらためて感じました。それぞれが持っている課題はあると思いますが、今回は出身施設の職員や社協などの団体との繋がりから支援してもらったということに感謝し、日々の生活の励みにしてほしいと思います。施設職員の立場から、この事業を実施するにあたってご協力いただいた皆様方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

社会福祉法人 青葉学園 西山明美園長

荷物を受け取った方からの声



暮らしのおうえんセット。食品や日用品をメインに喜んでもらえそうな商品を選びました。手配にはライフコーポレーション様にご協力いただきました。

昨日、家に届きました。本当に助かります。ありがとうございました!(府社協 HP 問合せ欄より)

「暮らしのおうえんセット」に同封された「あす・いろいろプロジェクト」のチラシを見て自分も対象になると思い連絡しました。(電話)

いつ届きますか? 待っています (電話)

発送に携わった府社協職員の声



気軽に相談できる相手や頼れるつながりの大切さ

総務企画課 山本 歩

私は箱詰め作業に携わりました。私と同じ年代の当事者の声を目にし、食事や金銭面、人間関係など多くの不安を抱えながら生活している現状に深く考えさせられました。特に、気軽に相談できる相手や頼れるつながりの大切さを改めて実感しました。今回の「暮らしのおうえんセット」が少しでも皆さんの生活に役立てばと願っています。今後は、支援制度の周知や継続的なサポート体制の充実に努め、誰もが安心して生活できる環境づくりに府社協の一員として積極的に貢献していきたいと思っています。

支援の輪が安心感につながる

地域福祉・ボランティア振興課 大内 慶士朗

スーパーに発注していた日用品を受け取り、児童養護施設等退所者の方々へ向けて発送しました。必要とされる方へ配送する中で、支援物資を届けることは単なる物品提供ではなく、「気にかけている人がいる」という安心感にもつながると気付かされました。「暮らしのおうえんセット」の取り組みをとおして自身の担当業務においても相手との関係づくりを意識することの大事さを再認識し、今後の支援の充実に繋がっていきたくと思っています。

られました。こうした声を踏まえ、今後も「あす・いろいろプロジェクト」の充実ははじめ、関係団体との連携を図ってまいります。あわせて、一人ひとりが自身の生い立ちに関わらず、その人らしい生き方を肯定できるよう、誰一人取り残されない社会の実現に向けた支援を継続していきます。

孤立・孤独を 考える

内閣府孤独・孤立対策推進室が実施した「人々のつながりに関する基礎調査（令和6年）」において、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は4.3%、「時々ある」が15.4%、「たまにある」が19.6%であり、約4割の人が「孤独感がある」と回答しています。

孤独・孤立になっても助けを求める声を上げやすい、声をかけやすい社会をみんなで作っていくことを目指し、5月は「孤独・孤立対策強化月間」となっています。本会職員で孤独・孤立に関する事例を出し合い、誰にでも起こりうる孤独・孤立にどのように寄り添い、支えていくのかを考えました。

今号では孤独・孤立の事例に対し、本会ができることを取り上げ、紹介します。

※掲載されている事例は、実際の複数の事例をもとに再構成したフィクションです。

事例1

Aさん 20代男性

両親の虐待を理由に5歳の時に児童養護施設に入所。
大学進学に伴い、18歳で児童養護施設を退所し、現在は一人暮らし。生活費を稼ぐため、バイトを掛け持ちしており、授業がない時間はバイトをしている。食事や2食にする等できるだけ出費を抑えるようにしているが、生活は苦しい。
転入・転出などの役所の手続きや電気・ガス・水道などの公共サービスの手続き

この事例に対して京都府社会福祉協議会でできること

生活費の困りごとをサポート

○児童養護施設等を退所後の生活費や家賃相当額等を貸付し、生活を支援。
【施設等入所児童自立支援資金貸付】
○引越費用や入居費用が工面できない、遠方への就職活動の交通費が工面できない等への支援。

【京都地域福祉創生事業（通称：わっかプロジェクト）】に参画する社会福祉法人の拠出金に基づく給付による支援（あす・いろプロジェクト）
○食料や生活必需品などを詰め合わせ「くらしのおうえんセット」の配布。

【共同募金 赤い羽根・物価高騰下のい

が分かりにくく、賃貸住宅の契約手続きの際に保証人が立てられないなど、生活をする上でいろいろな困りごとを抱えているが、身近に相談できる人はいない。
大学に友人はいるが、自身の生い立ちや困りごとは話せずにいる。
就活も始まり、不安がある中、誰かに相談したいと思うが、退所した施設からは離れた地域で暮らしており、気軽に行くことができない。また、「忙しい中迷惑をかけてはいけない」と思い、施設に電話もしていない。

のちをつなぐ支え合い活動助成事業（令和7年度）
【地域での居場所づくり】
○子ども食堂や子どもの居場所等に安定的に食品を届ける等、食の提供を通じて、地域で支え合うしくみづくりを進める。

地域での居場所づくり

【きょうとフードセンター】
就職活動に関する相談
○福祉や保育の仕事への就職（正規職員、アルバイト等）を希望する方に、求人情報の提供や求人事業所への紹介・あっせんを実施。

就職活動に関する相談

【京都府福祉人材・研修センター】

事例2

Bさん 80代女性

夫と2人暮らしだったが、昨冬に夫が他界。地域のサロンに通っていたが、夫が他界してからは行く回数が徐々に減り、夏になる頃には全く行かなくなりました。

サロンで知り合ったCさんは、Bさんが熱中症で倒れていないか心配し、Bさんの家を訪問した。Cさんが呼び鈴を鳴らすとBさんが出てきて、家の中に案内されたが、部屋に入ると蒸し暑い。Cさんが「熱中症になるから、エアコンつけた方がいいんじゃない」とBさんに言うと、Bさんは「エアコン壊れちゃって…けど我慢で

きるから大丈夫」と返事をした。机の上を見ると、郵便物やチラシなどが散らばっていた。Cさんが郵便物やチラシを見ていることに気づいたBさんは慌てて片付けはじめ、「最近、片付けができなくて…」と言った。

Cさんが「何かあったの？」と聞くと、Bさんは「夫が他界してからは何も手につかず、気が付けば1日が終わっていることが増えてたかな…」とさみしそうな声で話した。Cさんは「また様子を見に来るね。サロンにも顔を出してくれたら嬉しい。」とBさんに伝え、Bさん宅を後にしたが、Bさんのことが心配である。

この事例に対して京都府社会福祉協議会でできること

地域とのつながりづくり

サロン活動や見守り活動を実施する団体等へサポートを実施。
【京都ボランティアバンク補助金等】
詳細はお住まいの市町村社協にお問い合わせください。

エアコンの購入費を貸付

○低所得世帯等でエアコンの購入資金がないといった場合に申請できる貸付制度。

郵便物の整理

○福祉サービスを利用、またはやめるために必要な手続きや税金・公共料金・医療費・光熱費・家賃等の支払いなど日常的な金銭管理のお手伝い、書類を整理し一緒に確認することで本人ができることを支援する。

【福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）】

地域福祉・ボランティア振興課

市町村社協や民生委員、企業、活動団体等の皆様と協力しながら、サロン活動や見守り活動、居場所づくり、フードセンター運営等に取り組んでいます。地域で暮らす一人ひとりが大切にされ、「助けて」と言える安心感、「共に生きたい」と思うことができる地域の土壌づくりに貢献できるよう、努力してまいります。

福祉資金課

生活福祉資金貸付制度は貸付決定後も他機関と連携し、就労支援や家計管理等、生活課題解決に向けた継続的な支援の役割が大切です。貸付で資金不足を解消するだけでなく、世帯の生活再建や安定につながれるかという長期的な視点を大切にしています。

事業に取り組む職員の思い

本特集をするにあたって、本会職員に市町村社協や社会福祉法人等との連携の中で把握した事例を集めたところ、約100件が寄せられました。集まったエピソードから、孤立・孤独は誰にでも起こり得る一方、支援につながる前の段階では自分ごととして捉えにくく、声を上げづらい実態が明らかになりました。

今回、事例をもとにショートストーリーを作成し、音声（朗読）として発信しています。身近な問題として関心を高めるとともに、対話を通じて見守りや関わり方のヒントを共有するきっかけづくりにご活用ください。

（QRコードからご覧いただけます。）



あなたの一言で、誰かの日が少し変わることがあります。その小さなつながりが、このまちを変えています。

「つながりをいかして、だれもが尊厳をもっていきることができる社会」をめざして。

京都府社会福祉協議会
〒604-0274
京都府京都市中京区竹屋町通
烏丸東入清水町 375
https://www.kyoshakyo.or.jp/

私たちのまちにあるいくつかの孤立にまつわるショートストーリー。今日は、その中の5つの声を紹介いたします。

こちらのQRコードから閲覧いただけます。

京都府社会福祉協議会 事業計画・予算

孤独・孤立の問題、昨今の物価上昇などの影響等、多様化・複合化する福祉ニーズの増大に対して、本会として、中期計画の重点方針と取組方針に基づき、誰もが尊厳をもっていきることができる共生社会の実現に向けた取り組みを進めるべく今年度の事業計画および予算を編成しました。

重点方針に基づき今年度新たに取り組む事業

- つながり、支え合う住民参画による福祉の地域づくりの推進
 - ・京都ボランティアバンク助成における地域住民による見守り活動支援
 - ・きょうとフードセンターにおける高校生・大学生と地域のこども食堂とのマッチングの実施
- 困りごとをとりこぼさない支援活動の推進

昨年度に引き続き力を入れて取り組む主な事業

- 地域福祉の推進を担う市町村協会の連携協働と活動支援
 - ・地域福祉やボランティア、地域福祉権利擁護事業、生活福祉資金、フォローアップ、包括的な支援体制整備市町村後方支援事業等の会
- 地域福祉に携わる人材の確保・育成・定着支援の推進
 - ・外国人介護職員の介護福祉士等資格取得支援、監理団体等と事業所のマッチング支援
- 大規模災害等非常時に対応できる支援体制づくり
 - ・市町村協・災害ボランティアセンターと連携した取り組みの推進
 - ・DWAATの派遣体制を強化するため災害派遣福祉チーム養成研修の実施
- 京都府社協の経営基盤強化
 - ・職員の研修体系を示す「人材育成方針」の作成と研修計画への反映
 - ・新人職員のサポート体制の整備

- ・議、研修等の開催
- ・温ったか京都・寄り添いワーカーの実践や思いを収録した音声アークイブの作成
- 社会福祉法人・福祉施設の経営支援と連携協働
 - ・京都地域福祉創生事業（わかづプロジェクト）の参画法人による取り組みを発信
 - ・参画法人の取り組みへの助成を通じて、「居場所づくり」や「食事提供」などの公益的取組を推進
- こども未来プロジェクトの推進
 - ・生活福祉資金（教育支援資金）による高校や専門学校、大学等への進学支援
 - ・児童養護施設等を退所した若者を支援する「あす・いろプロジェクト」の実施

令和8年度予算の概要

一般会計 (単位:千円)

	令和8年度 当初予算	令和7年度 当初予算	増減
事業活動収入	530,644	526,522	4,122
事業活動支出	849,545	874,419	△ 24,874
事業活動収支差額	△ 318,901	△ 347,897	28,996
その他の活動収入	545,663	667,133	△ 121,470
その他の活動支出	620,544	615,025	5,519
その他の活動収支差額	△ 74,881	52,108	△ 126,989
当期資金収支差額合計	△ 393,782	△ 295,789	△ 97,993
当期末支払資金残高	855,849	929,033	△ 73,184

生活福祉資金会計の概要

生活福祉資金には、教育資金をお貸しする教育支援資金、一時的に必要な経費をお貸しする福祉資金、失業等によってお困りの方に資金をお貸しする総合支援資金などがあります。令和8年度の貸付金、償還金の見込みは下記のとおりです。

(単位:千円)

	令和8年度 当初予算	令和7年度 当初予算	増減
貸付	446,600	456,600	△ 10,000
償還	1,162,640	1,449,492	△ 286,852



新事務局長就任挨拶 神戸 望

このたび事務局長を拝命いたしました。責任の重さを痛感するとともに身の引き締まる思いです。前任の武田局長をはじめ、これまで京都府全域の地域福祉推進に邁進してこられた先輩諸氏に恥じぬよう取り組みを進めてまいります。

少子高齢化や地域のつながりの希薄化が進む中、社会福祉事業や地域福祉は岐路に立たされています。福祉予算の拡充が難しいもとで社会福祉法人の経営基盤は弱まり、他産業と比べて低い処遇により人材確保は困難を極め、福祉事業の存続・発展が危惧されています。一方、地域住民の暮らしは孤独・孤立の深刻化、

所得格差の拡大などで生活苦が広がっています。

基本に立ち返り、本会の役割である住民の基本的人権を保障し、暮らしを支える地域福祉の推進と、その役割を担う社会福祉法人の基盤強化・事業支援に取り組むとともに、民生児童委員をはじめ関係者・団体、行政との連携を深めて誰もが安心して暮らせる京都をつくるため力を尽くします。

微力ではございますが、皆様との対話と学びあいを大切にして歩みを進めていきますので、今後ともご指導ご鞭撻をよろしく申し上げます。

令和8年度の新入職員

☆ よろしく ☆
★ お願いします! ★

今年度から京都府社会福祉協議会に新たに仲間入りした3名を紹介します。

- ①福祉への想い（希望理由含めた府社協での抱負）
- ②気になる福祉のテーマと理由



研修課 森川 慎太郎

①福祉の分野に幅広く携わりたいと考え、志望いたしました。人と人とのつながりを大切に、一人ひとりの心に寄り添った支援を行っていきたく考えております。②介護人材紹介の仕事に携わった経験から、福祉現場の環境改善に関心を持っております。人材の確保や育成・定着等、従事する方々が末長く、働きやすい環境づくりに取り組んでまいります。



地域福祉・ボランティア振興課 中山 陽香

①福祉系の学科で勉強する中で、生活に困難を抱える方の支援に携わりたいとの思いが芽生え、その中で広く福祉に携われる京都府社会福祉協議会の存在を知り入職致しました。右も左も分らないですが、ご指導ご鞭撻いただくと幸いです。②表面では見えにくい、メンタルヘルス関連の支援に興味があり、大学時代は依存症の方の支援を学ぶゼミに所属していました。



福祉資金課 浅野 光子

①大学時代にボランティアの楽しさを知り、団体を後方支援する社協に興味を持ち、広域のかつ幅広い福祉活動に携われる点に魅力を感じ志望しました。これまでの学びや経験を活かし「つながり」を大切に組み立ててまいります。②社会的養護施設を退所した方のフォローアップ支援に関心があります。退所後の将来の選択肢を広げられるよう、生活福祉資金制度を多くの方に知って頂きたいです。

令和8年度版

社会福祉法人等が経営、運営する
福祉施設・事業の賠償・傷害事故と、
法人の経営にともなうリスクを
幅広く補償します。



しせつの損害補償

「しせつの損害補償」に新たな加入方式「法人包括プラン」ができました。従来の「しせつの損害補償（施設単位加入）」と「法人包括プラン（法人包括加入）」のいずれかを選択・加入できます。

法人包括プラン NEW

「法人包括プラン」は、福祉施設・事業を経営・運営する社会福祉法人が加入対象です。（社会福祉協議会を除く）

第1種
社会福祉事業

第2種
社会福祉事業

全ての
施設・事業を
自動補償

収益事業

公益事業

ポイント1 **安心**

福祉施設（事業）の明細要らずで、全ての福祉施設・事業を賠償事故からまとめて補償

ポイント2 **便利**

期中で新たに始めた福祉施設（事業）も手続き不要で自動補償

ポイント3 **簡単**

契約時は全ての入所型・通所型施設の合計定員数の申告のみ（保育所は別途加入）

しせつの損害補償 （従来の加入方式）

従来のしせつの損害補償は、社会福祉法人、社会福祉協議会、公立福祉施設（自治体）、NPO法人、公益社団法人、公益財団法人が加入対象です。

「法人包括プラン」・「しせつの損害補償（従来の加入方式）」ともプラン1～4は、共通内容です。

プラン1 施設業務の補償

プラン2 施設利用者の補償

プラン3 職員等の補償

プラン4 法人役員等の補償

見積作成・加入手続きは簡単便利なインターネットから!!

PCからの場合は、[ふくしの保険 検索](https://www.fukushihoken.co.jp/)
<https://www.fukushihoken.co.jp/> よりアクセス!!



スマートフォンやタブレットの場合はこちらの二次元コードよりホームページにアクセスしてください。



● このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

〈引受幹事
保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL：03(3349)5137

受付時間：平日の9:00～17:00（土日・祝日、年末年始を除きます。）

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL：03(3581)4667

受付時間：平日の9:30～17:30（土日・祝日、年末年始を除きます。）